

課題図書の不真面目な読み方

眞鍋由比 201504

今年の全国読書感想文コンクールの中学の課題図書『ブロード街の12日間』ボラ・ホプキンソン著 あすなろ書房 2013。課題図書になるくらいですから、まじめな本です。実在の人物ジョン・スノウ博士を中心に史実にもとづいて書かれたフィクションです。ヴィクトリア朝時代のロンドン。わけあって孤児となった主人公の少年は自分のことをイールと呼ばせる。イールってうなぎです。変な名前。でも「うなぎのように抜け目なく」と言われたら、確かにそのくらいしたたかに生き抜かないといけな、どぶさらいをして金目のものをクズ屋に持って行ってその日のパンを得ているようなたいへんな毎日を送っています。しかもやっと工場に住まいと定期収入を見つけたのに工場主の親戚の息子にハメられて、追い出されそうになったとき、彼が正直な人間だと証言してくれそうな仕立て屋のグリッグズさんのところを捜しに行く…。なんとグリッグズさんがわけのわからない病気にかかって死んでしまいます。その病気はブロード街で次から次へと伝染し、親しい人がどんどん亡くなっていく状態にイールは呆然とします。でも偶然知り合った女王様さえ診ているお医者様であるジョン・スノウ博士なら治せるんじゃないかと希望を持つのですが…

史実に基づいていて、ありえないような話でも現実ならそれが論拠となって正当な感染源を割り出していく…そう、これはシャーロック・ホームズミステリーと同じ！（当時はコレラは空気感染と信じられていました）舞台となった1854年と言えば、シャーロック・ホームズが生まれた年とされていますね。そして、イールに冷たいほど論理的な話をし、コレラという未知の殺人鬼（難病）を特定し、予防法を見つけ解決するジョン・スノウ博士は探偵ホームズ役と言っているでしょう。イールに厳しい家政婦ジェーン・ウェザーバーンはベイカー街遊撃隊の子どもたちに厳しかったハドスン夫人、スノウ博士を「人類にとっての最大の恩人」とたたえたホワイトヘッド牧師はワトスン博士といったところでしょうか？

「青い恐怖」と名づけられたコレラは当時は治らない病気でしたが、スノウ博士のおかげで予防に成功し、治療法も見つかります。今、世界で問題となっているエボラ出血熱もやがては治療方法が見つかるかもしれない。人類はずっとそうやって未知の病気とたたかってきました。今まで信じられていたことも理論的に考えて違う場合、ありえなくてもそれが答えである…常識からはずれることって勇気が要りますけどね。そういう意味では大人にこそちょっと読んでほしい本かもしれません。

完全にありえないことを取り除けば、残ったものは、いかにありそうにないことでも、事実に間違いないということです。シャーロック・ホームズ

